

青葉区明るい選挙推進作文コンクール 2023

「青葉区明るい選挙推進作文コンクール 2023」表彰式を実施しました。前号でも掲載した通り、今年度は8校から107の作品の応募がありました。厳正な審査の結果、8名の中学生が入賞されました。どの作品も選挙に対する中学生の熱い思いのこもった作品ばかりでした。



上位3賞は本紙中面に掲載！
全受賞作品はHPにも掲載しています！



↑HPはこちらから



↑表彰式の様子

【受賞者一覧】

賞	題名	学校名	入賞者氏名
青葉区明るい選挙推進協議会 会長賞	選挙管理委員の白紙投票への思い	あかね台中	宇野 千絢さん
青葉区選挙管理委員会 委員長賞	その一票が日本の未来につながる	鴨志田中	嶋津 遼さん
青葉区長賞	三年後に向けて	鴨志田中	鈴木 晴香さん
えら坊賞(佳作)	選挙に行く意味	あかね台中	鶴藤 樹里さん
	一票の大切さ	谷本中	田中 百果さん
	私たちの一票で	谷本中	千葉 彩香さん
	関心の上になり立つ選挙	谷本中	松倉 影虎さん
	あなたのその一票が未来を変える	山内中	延廣 里華さん

編集後記

今年度のイコット通信も3回目を迎え、最終号となりました。昨年は新型コロナウイルスで中止や縮小されていた活動が再開される等、徐々に賑わいを取り戻しつつあると感じています。また、今年は青葉区区制30周年を迎え、区役所でも様々な企画が実施される予定です。事務局一同、来年度も変わらず啓発活動に尽力していきますので、引き続き、よろしくお願いいたします。



HPはこちら

あおばイコット通信
令和6年3月号
＜編集・発行＞
青葉区明るい選挙推進協議会
＜事務局＞
青葉区総務課統計選挙係
TEL:978-2205

過去のイコット通信はHPで見られるよ！



令和6年3月号 青葉区明るい選挙推進協議会の「今、をお届け！ あおばイコット通信 No.80



トピックス

せんきょフォーラムを実施しました！

今年度は全6校で「せんきょフォーラム」を実施しました。4月の統一地方選挙の影響もあり、非常に関心が高く、実りのある時間となりました。

また、開催校の近隣に住んでいる推進員の方などにお声がけをし、当日お手伝いもいただきました。お手伝いいただいた推進員の皆さまには、改めて感謝申し上げます。



【令和5年度実施校一覧】

	開催日	学校名	テーマ
①	6月20日	市ヶ尾小学校	団結力を高めるレク
②	7月18日	美しが丘東小学校	給食のメニュー
③	9月12日	桂小学校	思い出作り
④	11月22日	藤が丘小学校	揚げパンにかけるもの
⑤	12月12日	黒須田小学校	給食のデザート
⑥	12月19日	山内小学校	給食のメニュー

→ 出前授業の様子



→ 立候補演説の様子



→ 模擬投票の様子



推進員の方々には小学生と一緒に投票管理者として、投票が適切に行われているかの確認や、投票証明書の配布をお手伝いいただきました。



青葉区明るい選挙推進協議会会長賞

選挙管理委員の白紙投票への思い

あかね台中学校 二年 宇野 千綯

昨年十一月、私の学校では生徒会選挙が行われ、私は選挙管理委員会として活動した。選挙公報の撮影から始まり、朝の選挙運動、応援演説、そして開票まで、委員会で役割分担をした。そして一年間、私たちは「白紙投票・無投票をゼロに」という目標を掲げ、活動を行った。

だが、実際に開票作業を行ってみて、白紙投票や無効票が全体の二割から三割程度あったことに驚いた。学校では全員参加のこの選挙において、これらの票は、実際の選挙においては投票に行かないことと同じなのではないかと思った。そこで私は、この目標は、今の日本の選挙にも同じように必要なものではないかと思った。なぜ、学校でも実際の選挙でも、白紙投票や無効票、投票に行かないという選択になるのかを考えてみた。

第一に、選挙に関して理解不足の人が大勢いるのではないかと思う。選挙に行かないことで、民意が完全に反映されないことの重大さに気が付いていないのではないか。「自分一人が選挙に行かなくても、何も変わらない」これは、やはり学校での白紙投票をしているのと同じではないかと思う。

第二に、公約に納得できない・興味がない等、皆が望む公約がないことで投票に行く意味を失っている、もしくは白紙で拒否の意思を示している場合もあると思う。今の学校や地域にとって、本当に必要で、皆が望むことを公約にすべきである。学校生活に関係がない、また、住民のためにならないことを公約にしても票は入らないのではないかと思う。

様々な考え方があり、学校での目標のように白紙投票・無効票を完全に無くすことは難しいのではないかと思った。しかし、減らすことはできるのではないかと考えている。

その案として、第一に、既に小学校の出前授業で行われている、「せんきょフォーラム」を中学・高校でも実施すべきだと思う。生徒会選挙だけでなく、学校や地域の課題を一人一人自ら考え、その解決案を議論し、投票で決定する。そして公約を必ず実行し、その変化を実感する。これにより、自分たちが主体であり、選挙を通じて自分たちの一票で世の中を変えることができるという意識に繋がる。

第二に、白紙投票や選挙に行かないことは貴重な一票を無駄にしていることに気付くべきだと思う。以前、学校で白紙投票が多かった時があり、その理由に、「学校の規則に反した公約があったから白紙投票にした。」というものがあつた。私は白紙投票では、自分の本来の意思表示ができずもつたいないと思っている。母もよく、「自分の一票を入れる事が大事。選挙に行かないと自分の意思表示ができない。」と言って選挙に行っている。

私たちは選挙という行動で、世の中を変えることができるという今一度認識するべきだと思ふ。そして、生徒会選挙、日本の選挙から、白紙投票を減らすことが出来、投票率も上げることができると思っている。

青葉区選挙管理委員会委員長賞

その一票が日本の未来につながる

鴨志田中学校 三年 嶋津 遼

最近の選挙というのは、昔の制限選挙と比較して自由で平等な選挙といえますが、逆に「選挙がしたい人」、あるいは「政治をよく知っている人」だけが選挙に参加しているという、中途半端な選挙になっているのではないのでしょうか？ これでは投票した一部の人の意見が国民の意見として反映され、結果からすると昔の制限選挙と変わらないのではないのでしょうか？ なぜなら、制限選挙も投票できる条件を満たしている人だけの意見を国民の意見として反映していたからです。

僕は常々、なぜ大人には参政権があるというのに選挙に参加しないのだろうと思っています。特に、二十代の若者の投票率は低く、令和三年の衆議院議員総選挙では三割にとどまっているというのが今の現状です。

若者が選挙に参加しない主な理由として、「選挙に関心がないから。」というのがありますが、なぜでしょう。僕には二つの理由があると思います。

一つ目は、専門用語の使いすぎにより、最近の政治が全く分からないからです。僕にもこんな経験があります。選挙とは少し関係がないですが、一度裁判所の傍聴に行ったときに、弁護士が言っていることがよく分からなくて聞く気が起きなくなりました。政治家も同じです。ニュースなどを見ても、政治家は記者に対して難しい言葉を使って質問に答えていました。しかたのない部分もありますが、これでは若者が政治に興味がなくなってしまうのも当然でしょう。

二つ目は、最近の若者は新聞をとらないからです。スマホでも見れますが、ネットニュースには少し曖昧な部分があります。しかし新聞は政治的な内容が詳しく載っていてとても分かりやすいです。なのにも関わらず、若者のネットニュースの利用率が七割で、新聞が一割以下になっています。また、若者がネットニュースで政治的ニュースを一日七分しか見ていないというデータがあります。普段から政治にふれておくことによって、政治に興味を湧いてくるのではないのでしょうか。

以上の二つの理由が若者が政治離れしている理由だと思えます。

若者が政治にふれる場を提供し、支援していくのも政治家の役目であると思います。それにこたえるのが若者で、積極的に選挙に行くべきです。投票をしないというのは、生きにくい日本の未来を作ることと同じです。「一票くらい変わらないでしょ。」「まさに「塵も積もれば山となる」です。「一票くらい変わらない」という思考が山となって、二十代の若者の投票率が三割以下になってしまうのです。これは、全国民で改善していくべき課題だと僕は思います。

僕は、二学期から社会で公民を学びますが政治をよく理解した上で、十八歳になったとき選挙に参加できるように、今後の授業を集中して受けたいと思います。

青葉区長賞

三年後に向けて

鴨志田中学校 三年 鈴木 晴香

私は三年後、選挙に行くだろうか。二十六年六月に改正公職選挙法が施行され、選挙権年齢が二十歳から十八歳に引き下げられた。今まで選挙というと、立候補者のポスターの掲示や駅前での街頭演説、選挙運動カーなどを見かけることはあつたが、自分とは遠い存在に感じていた。しかし、選挙権が得られる十八歳までたった三年、そう考えると急に選挙が身近なものに感じられる。

では一体選挙とは何なのか、まずそこから考えてみることにした。選挙で決められるのは、衆議院および参議院の国会議員、県知事、市議会議員などの政治を行う人、つまり私たちの代表者である。私たちの代表者を選ぶとなると、その人が何を問題だと捉えて、どう改善しようとしているのかを知る必要がある。また個人としての考えだけではなく、その人が属する政党がどのような考えに基づいて活動しているか、どのように政治を進めようとしているのかも知らなければ、代表者として選ぶことは出来ない。しかし正直、私は今どんな政党があり、どんな人が政治を動かしているのか、神奈川県知事・横浜市長の顔と名前もパツとは出てこない。

しかし日々生活している中で、選挙後に大きく変化があることも体感している。身近なところでは、横浜市の中学校がハマ弁から給食になったり、医療費の個人負担が中学三年生まで無くなったり、学校で一人一台クロームブックが使えるようになった。のも選挙によって選ばれた代表者が決めたことだ。これらは選挙前に候補者が掲げたマニフェストに則って実行されたもので、投票によって票を投じた人の意見が反映されていると言える。こうして考えると政治は私達の身近にあつて、そして政治を行う代表者を決める選挙は、私たちの生活に直につながっている。私が三年後に手にする選挙権とは、私たちの意見を政治に反映させるための大事な一票なのだ。

十八歳まであと三年。まずは生活の中で政治を見つめよう、知ろうと思う。どういう人たちが、どういう考えで政治を行っているのか、まずは日々のニュースを見るところからスタートしようと思う。政治は決して遠い存在ではなく、身近なものであるという当事者意識をもって、政治を見つめてみようと思う。そして三年後の私は、しっかりと自分の意思を持って、選挙に行つて投票したいと思う。

